

## 大和高田市教育環境あり方検討委員会が開催されました

令和7年4月28日(月)に第3回教育環境あり方検討委員会が開催されました。

第3回では事務局より前回意見を踏まえた小学校・中学校の適正規模・適正配置(案)、幼稚園の適正規模(案)の説明を行い、意見交換を行いました。



## 1. 話し合った内容や意見

## ○議事

## &lt;小学校・中学校の適正規模・適正配置について&gt;



※以下、委員の皆様からご意見をいただくための資料として作成した事務局案で、決定したものではありません。

## 本市における適正規模(案)※

小学校の適正規模は、すべての学年でクラス替えが出来るとともに、現状において児童が学校生活を送る上で適当であるとの意見等を踏まえ、国が目安とする基準に準じるものとします。

中学校の適正規模は、現状において国が目安とする基準を下回っているものの、生徒が学校生活を送る上で適当であるとの意見や学校運営上の課題について解消が見込まれること等から、現状を踏まえたものとします。

将来的に義務教育学校の検討を行う場合の適正規模は、国が目安とする基準に準じるものとします。

|        | 小規模     | 望ましい規模          |
|--------|---------|-----------------|
| 小学校    | 11 学級以下 | 12 学級以上、18 学級以下 |
| 中学校    | 8 学級以下  | 9 学級以上、18 学級以下  |
| 義務教育学校 | —       | 18 学級以上、27 学級以下 |

## 本市における適正配置(案)※

適正配置は、通学距離・時間、安全性、地域との関連性等を考慮する必要があります。

通学距離・時間については、国が目安とする基準として、小学校は概ね4km 以内、中学校は概ね6km 以内、いずれもおおむね1時間以内と示されています。本市の小学校・中学校は、最も遠い校区界までの距離が小学校で概ね2km、中学校で概ね3kmとコンパクトに配置され、いずれもおおむね 30 分程度で通学できる環境にあることから、国が目安とする基準を十分に満たしており、その基準に準じるものとします。

## 適正規模化を検討する上での適正配置の方向性(案)※

将来的に学校統合や通学区域の見直し等の検討を行う場合において、現状の通学区域における最長距離や最長時間を大幅に超える地域が生じる際は、隣接する学区での選択制やスクールバスの運行、自転車通学、通学補助金等導入の可否を含め、実情に合わせた支援策を検討します。

また、引き続き、犯罪や交通事故の防止など、通学路の安全確保に努めます。

## <幼稚園の適正規模について>

※以下、委員の皆様からご意見をいただくための資料として作成した事務局案であり、決定したものではありません。

### 本市における適正規模（案）※

本市の幼稚園設置規則では3歳児は 20 人以下、4歳児及び5歳児は 30 人以下を原則としています。また、1学級あたりの望ましい人数として、3歳児では「10 人～14 人」が、4歳児及び5歳児では「15 人～19 人」という意見が最も多くなっています。

これらを踏まえ、本市における幼稚園の適正規模(1学級あたりの園児数)は、3歳児 10 人以上、4歳児 15 人以上、5歳児 15 人以上とします。



## <主な意見>

小学校・中学校の適正規模(案)については、概ね承認をいただきました。適正配置(案)については「適正規模化を検討する上での適正配置の方向性(案)」も含めて記載すること等のご意見をいただきました。

他、議事について、各委員から以下のような意見や質問がありました。(一部抜粋)

### ●小中学校の規模について

・小学校の適正規模として、全学年においてクラス替えが可能となるように 12 学級が望ましいのはわかるが、現状クラス替えができない1クラスの小学校はどうするのか。

### ●小中学校の通学について

- ・地域によっては下校時のボランティアに出てもらうなど、協力をいただいているが、今は働いている人の年齢が上がっているので、出してくれる方は減っている。
- ・スクールバスとなったときに、お金が発生するかどうかを示したうえで統合するかしないかを決めないと、もめることになる。

### ●幼稚園の適正規模について

- ・幼稚園型認定こども園を売りにすれば、もっと子どもたちが集まり若い世代が増えてくる。幼児教育を売りにする。小学校と同じ給食を食べて、そのまま小学校へ上がっていける。その3年間が保証されている。幼児教育を推していけないかと感じている。
- ・下限の人数を決めなければいけないのか。1人でも2人でも受け入れたいと思っているが、何人以下の場合はどうするのか。同じ教育を受けて上がってほしい。
- ・市内の保育所に通う子どもたちにも、3歳児から5歳児に同じ教育施設で幼児教育を行い、小学校に上げていきたい。園長同士でそういう話をしている。
- ・予算を立てるところでお金がない中、1人、2人のためにどれだけお金をかけるのかという問題はすごく大きいと思う。
- ・今の保護者が質の高い保育を求めているかということ、働くために預けたいということの方が大きいと思うので、預かる時間を長くするしか幼稚園が残る道はないのではないかと感じている。

※詳細については別添の「第3回大和高田市教育環境あり方検討委員会議事概要」をご確認ください。

## 2. 今後のスケジュール

第4回は第3回で頂いた意見をもとに学校園の適正規模・適正配置案のとりまとめを行い、再編の対象となる学校の考え方や実施時期、地域と連携した学校づくり等について意見交換を行います。

